

鼻腔内痰吸引具 年明けから販売

洗浄し1週間使用も可能

栃木精工
医療器具製造の栃木精工（栃木市平柳町2丁目、川嶋大樹社長）は、体内に吸引カテーテルなどを挿入せずに鼻腔から痰を除去できる吸引チップ「スプタバキューマー」の販売に乗り出す。これまで自社製品の販売は取引先の医療機器メーカーに委託していたが、吸引チップは現在構築中の代理店網を初めて活用し、年明けから販売する。

高い汎用性、負担軽減

体力が弱まり自力で咳を「たまった痰を吸引していい」ことができる。たまった痰がたまっていく患者に「痰を排出できない患者に」対しては従来、鼻腔からカテーテルを挿入して気道に

「患者も介助者も大らかな負担軽減になり、医療関係者からも高い評価を得ている」（川嶋社長）という。

「たまった痰を吸引していい」たまった痰がたまっていく患者に「痰を排出できない患者に」対しては従来、鼻腔からカテーテルを挿入して気道に

製品は神戸大未来医学研究開発センターの石北直之客員准教授と岩手県産の樹脂部品メーカーが開発したが、2023年に栃木精工が製造販売する権利を譲り受けた。同社は量産化に向けた準備を進め、今年6月には医薬品医療機器等法に基づき手続も完了した。

従来の吸引カテーテルは基本的に使い捨てだが、スプタバキューマーは洗浄しながら1週間使える利点もある。さまざまな吸引機に対応できるなど、汎用性も高い。

同社は新製品を自社製品



シミュレーターの鼻腔にスプタバキューマーを押し当て痰の吸引を実演する担当者＝栃木市



栃木精工が年明けから販売する鼻腔内吸引チップ「スプタバキューマー」

の販売方法の転換点にしたいと考えて、川嶋社長は「これまで売り方が分からずお蔵入りした製品が多々ある。今後、これらの製品も販売していきたい」と話した。

2024年11月14日下野新聞掲載記事

※下野新聞社様より掲載許可をいただいております